

佐賀のみどりを次代へ

森林環境税
2014 特集



手入れされた豊かな森は多くの恵みを人にもたらす

佐賀のみどりを次代に残そうと、佐賀県は「森林環境税」を導入しています。そして、お金は、森林整備のためのさまざまなことに活用されています。きょう5月4日は「みどりの日」。県民みんなで豊かな森をつくるにはどうすればいいのか、あらためて、考えてみます。



森林環境税 県民ひとり500円

県民みんなで森林を守ろうと、県は平成20年度に森林環境税を導入しました。県民税に上乗せする形で県民一人につき年額500円、法人からは資本金に応じて同1000円、4万円を徴収しています。

平成24年度までの5年間で集めた額は約10億5000万円。これを活用して、県民協働で荒廃した森林の間伐など約2,400haの森林が整備されました。県民アンケートなどで必要性が確認されたことから、税は25年度からさらに5年間、延長されることになりました。これを受けて、森の再生のためのさまざまな事業が継続して行われています。

荒廃森林 2400ha 整備

佐賀県の森林面積は約11万1千haで県土のほぼ半分(約46%)を占めます。天然林が少なく、スギやヒノキなどの人工林が多い構成で、人工林率67%は全国1位となっています。以前は木材生産が盛んで切り出した木材は県内各地で活用されていましたが、昭和55年をピークに県産木材の価格は下降し、次第に林業が衰退。林業従事者の山村離れや森林所有者の高齢化が進み、森林の手入れが十分

行われずに、荒廃が深刻化するようになりました。

森林は木材供給のほかにも、山地災害の防止や水源のかん養、生態系の保持、景観保全などさまざまな公益機能を担っています。しかし、森が荒れるとこれらの機能も果たせません。

森林を健全な状態で次の世代に残していくためには、「苗木を植え、木を大きく育て、成長した木を伐採して利用。また苗木を植えて、育てる」というサイクルを、しっかりと循環させることが大切です。

森の循環大切

人工林 欠かせない間伐

森の中でも、スギやヒノキなどの人工林を育てるには、人の手が欠かせません。成長に応じて適切な時期に、間伐(間引き)を行うことで、木が大きく育つのです。

適切な間伐をしないと、まま森林を放置すれば、大きくなった樹木が密集した状態となり、地表に日光が届かず下草が育たないため、地面が露出し、山崩れなどの災害を引き起こすことにもつながります。

間伐の行き届いた森林は日光が地面まで届いて、下草が生え、木も勢いよく成長します。



松原 幸孝さん (NPO法人 かいろう基山事務所)

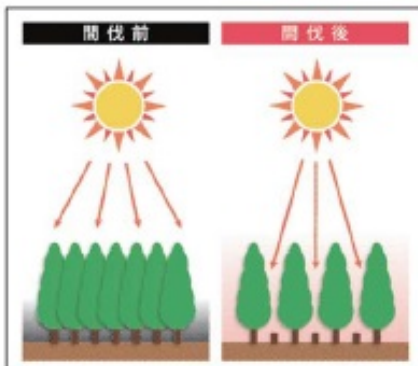
佐賀には美しい里山の風景が広がっていますが、実際は、モウソウチクにほとんど侵食され、危機的な状況にあります。モウソウチクは根が浅いため、モウソウチクの林になってしまうと、土砂災害などの危険も高くなります。

何とか、昔ながらの美しい風景を守ろうと、私たち「かいろう基山」(会員53人)はモウソウチクを伐採し、広葉樹を植える活動を続けています。

森林環境税の補助事業として、市民参加型のイベントも実施。今年は約100人が参加して、モウソウチクを伐採し苗木300本を植えました。参加した市民は、「身近な山が、こんなに荒れているとは知らなかった」と驚きます。

ただ、残念ながら、この危機感是一般の人たちにはまだ浸透していないというのが実情です。林業従事者が高齢化する中で、「地域の森は、地域の住民みんなで守る」ことが大事です。ぜひ、一人でも多くの方に森の現実を見てもらい、行動にも立ち上がってほしいと思います。

住民の力で身近な森を守ろう



みんなの力で豊かな森

間伐材

クreek護岸の補修にも活用

間伐材は、クreek護岸用の木柵に利用されています。

佐賀平野ではクreekの法面の崩壊が進んでおり、県は補修工事に取り組んでいます。平成24年度から県営部分について



は、従来のコンクリートブロックによる補修から、県産の間伐材等を使った木柵工法に変更しました。工費はコンクリートブロックの3分の1程度と経済的で、工期短縮も図られます。延長約580^mを10年かけて整備する計画で、これにより、県産の間伐材が県内で有効に活用されることになります。



手入れの備った豊かな森



手入れがいき届かず荒れた森



間伐材の運搬



密生した木の間伐

間伐と間伐材の利用推進

豊かな森林づくりのため人工林では間伐が欠かせませんが、木材価格の低迷で間伐しても採算に合わない時代が長く続き、間伐が行われずに、荒廃した森林が多く見受けられます。そこで、公益的機能が高いとして選定した県内10カ所の「環境林」のうち、荒廃した人工林で、県が森林所有者に代わって間伐を実施しています。針葉樹を通常よりも高い比率で間伐し、

災害に強い
針広混交林に誘導

すき間に広葉樹が自然に生えることで、針葉樹と広葉樹が混じり合った「針広混交林」に誘導します。これにより、山地災害に強い豊かな森となります。平成24年度までの5ヶ年で、ヤブオクドーム約290個分にあたる約2,000^{ha}の森林が整備されました。平成29年度までの第2期で、さらに10カ所、約2,000^{ha}を整備する計画で、森林内で流出するおそれがある倒木や間伐材の除去作業も始まりました。

Information

森林ボランティアの情報満載
「さが森づくり情報センター」

住所 佐賀市鍋島6-5-25
時間 月～金 / 9:00～18:00
FAX 0952(32)3371
HP さが森づくり情報センター 検索

間伐材の
搬出後押し
森林の荒廃防止

この支援によって平成25年度に搬出され、有効に活用された木材は約7,000立方メートルになります。

間伐材の搬出は、伐採から運搬までにさまざまな経費がかかるため、林道などから離れているといった条件の悪い森林では、採算に合わないことから間伐そのものが見送られ、森林の荒廃が懸念されています。そこで、森林環境税を使って、間伐材の搬出を支援し、森林所有者の間伐を促進することで森林の荒廃を未然に防いでいます。



流出のおそれのある倒木